



バックアップと復元

- [UCS でのバックアップの操作, on page 1](#)
- [バックアップ操作の考慮事項と推奨事項 \(1 ページ\)](#)
- [バックアップ操作とインポート操作に必要なユーザ ロール, on page 2](#)
- [バックアップ操作の作成, on page 3](#)
- [バックアップ操作の実行, on page 8](#)
- [バックアップ操作の変更 \(9 ページ\)](#)
- [1 つまたは複数のバックアップ操作の削除, on page 10](#)
- [バックアップ タイプ, on page 10](#)
- [システムの復元, on page 22](#)

UCS でのバックアップの操作

Cisco UCS Manager からバックアップを実行する場合は、システム設定全体またはその一部のスナップショットを作成し、そのファイルをネットワーク上の場所にエクスポートします。Cisco UCS Manager を使用してサーバにデータをバックアップすることはできません。

バックアップは、システムが起動されて動作している間に実行できます。バックアップ操作では、管理プレーンからの情報だけが保存されます。バックアップは、サーバまたはネットワークトラフィックには影響しません。

バックアップ操作の考慮事項と推奨事項

バックアップ操作を作成する前に、次のことを考慮してください。

バックアップの場所

バックアップ場所とは、Cisco UCS Manager でバックアップ ファイルをエクスポートするネットワーク上の宛先またはフォルダのことです。バックアップ操作は、バックアップ ファイルを保存する場所ごとに 1 つしか維持できません。

バックアップ ファイル上書きの可能性

ファイル名を変更しないでバックアップ操作を再実行すると、サーバ上にすでに存在するファイルが Cisco UCS Manager によって上書きされます。既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作内のファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーします。

バックアップの複数のタイプ

同じ場所に対して複数種類のバックアップを実行し、エクスポートできます。バックアップ操作を再実行する前に、バックアップタイプを変更します。識別が容易になるように、あるいは既存のバックアップファイルが上書きされないように、ファイル名の変更を推奨します。

スケジュール バックアップ

事前にバックアップ操作を作成し、バックアップを実行する準備が整うまで管理状態を無効のままにしておくことができます。Cisco UCS Manager は、バックアップ操作の管理状態が有効化されるまで、バックアップ操作、保存、設定ファイルのエクスポートを実行しません。

増分バックアップ

差分バックアップは実行できません。

Full State バックアップの暗号化

パスワードなどの機密情報がクリア テキストでエクスポートされないように、Full State バックアップは暗号化されます。

バックアップ ポリシーと設定エクスポート ポリシーの FSM タスク

[Policy Backup & Export] タブで [Backup Policy] と [Config Export Policy] の両方を設定し、両方のポリシーに同じホスト名を使用すると、Cisco UCS Manager は [Backup Configuration] ページで1つのバックアップ操作のみを作成して両方のタスクを実行します。それぞれのポリシー実行で、個別の FSM タスクは発生しません。

各ポリシーが個別の FSM タスクとなるようにするには、使用する DNS サーバに同じ FTP/TFTP/SCP/SFTP サーバを指すようにホスト名エイリアスを作成し、次に、バックアップポリシーに1つのホスト名を使用し、設定エクスポートポリシーに別のホスト名を使用します。

バックアップ操作とインポート操作に必要なユーザロール

バックアップ操作とインポート操作を作成し、実行するには、管理ロールを持つユーザアカウントが必要です。

バックアップ操作の作成

Before you begin

バックアップサーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシアルを取得します。

Procedure

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスで、[Create Backup Operation] をクリックします。
- ステップ 6 [Create Backup Operation] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• [enabled] : [OK] をクリックするとすぐに、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作が実行されます。• [disabled] : [OK] をクリックしても、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作は実行されません。このオプションを選択すると、ダイアログボックスのすべてのフィールドが表示されたままになります。ただし、[Backup Configuration] ダイアログボックスからバックアップを手動で実行する必要があります。

名前	説明
[Type] フィールド	<p>バックアップ設定ファイルに保存された情報。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Full state] : システム全体のスナップショットが含まれるバイナリ ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ時にシステムを復元できます。このファイルにより、元のファブリック インターコネクト上で設定を復元または再構築できます。また、別のファブリック インターコネクト上で設定を再現することもできます。このファイルは、インポートには使用できません。 <p>Note Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All configuration] : すべてのシステム設定と論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクトまたは別のファブリック インターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。このファイルには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。 • [System configuration] : ユーザ名、ロール、ロケールなどのすべてのシステム設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクトまたは別のファブリック インターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。 • [Logical configuration] : サービスプロファイル、VLAN、VSAN、プール、ポリシーなどのすべての論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクトまたは別のファブリック インターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。

名前	説明
<p>[Preserve Identities] チェックボックス</p>	<p>[All Configuration] および [System Configuration] タイプのバックアップ操作では、このチェックボックスは常に選択されており、次の機能を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • All Configuration - バックアップ ファイルは、プールから取得したすべてのアイデンティティ (vHBA、WWPN、WWNN、vNIC、MAC、UUID を含む) を保存します。また、シャーシ、FEX、ラックサーバのアイデンティティ、ならびにシャーシ、FEX、ラックサーバ、IOM、ブレードサーバのユーザラベルも保存されます。 <p>Note このチェックボックスが選択されていない状態で復元を行うと、アイデンティティが再割り当てされ、ユーザラベルが失われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • System Configuration - バックアップ ファイルはシャーシ、FEX、ラックサーバのアイデンティティ、ならびにシャーシ、FEX、ラックサーバ、IOM、ブレードサーバのユーザラベルを保存します。 <p>Note このチェックボックスが選択されていない状態で復元を行うと、アイデンティティが再割り当てされ、ユーザラベルが失われます。</p> <p>[Logical Configuration] タイプのバックアップ操作でこのチェックボックスが選択されている場合、バックアップ ファイルはプールから取得したすべてのアイデンティティ (vHBA、WWPN、WWNN、vNIC、MAC、UUID を含む) を保存します。</p> <p>Note このチェックボックスが選択されていない状態で復元を行うと、アイデンティティが再割り当てされ、ユーザラベルが失われます。</p>

名前	説明
<p>[Location of the Backup File] フィールド</p>	<p>バックアップ ファイルの保存場所。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Remote File System] : バックアップ XML ファイルはリモート サーバに保存されます。Cisco UCS Manager GUI によって次に示すフィールドが表示され、リモート システムのプロトコル、ホスト、ファイル名、ユーザ名、パスワードを指定できます。 • [ローカル ファイル システム (Local File System)] : バックアップ XML ファイルはローカルに保存されます。 <p>HTML ベースの Cisco UCS Manager GUI に [Filename] フィールドが表示されます。バックアップ ファイルの名前を <code><filename>.xml</code> 形式で入力します。ファイルがダウンロードされ、ブラウザの設定に応じた場所に保存されます。</p>
<p>[Protocol] フィールド</p>	<p>リモート サーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。 • USB B : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>バックアップファイルが格納されている場所のホスト名または IP アドレス (IPv4 または IPv6)。これは、サーバ、ストレージアレイ、ローカルドライブ、またはファブリックインターコネクタがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>Note IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[Remote File] フィールド	<p>バックアップ設定ファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。</p>
[User] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p> <p>Cisco UCS Manager ではこのパスワードは保存されません。そのため、バックアップ操作をすぐに有効にして、実行する予定がない限り、このパスワードを入力する必要はありません。</p>

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ステップ 8 Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

[Admin State] フィールドをイネーブルに設定すると、Cisco UCS Manager によって、選択した設定タイプのスナップショットが取得され、ファイルがネットワークの場所にエクスポートされます。[Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルに、バックアップ操作が表示されます。

ステップ 9 (Optional) バックアップ操作の進行状況を表示するには、次の操作を実行します。

- a) [Properties] 領域に操作が表示されない場合、[Backup Operations] テーブルの操作をクリックします。
- b) [Properties] 領域で、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。

[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

ステップ 10 [OK] をクリックし、[Backup Configuration] ダイアログボックスを閉じます。

バックアップ操作は完了するまで実行し続けます。進捗を表示するには、[Backup Configuration] ダイアログボックスを再度開きます。

バックアップ操作の実行

Procedure

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ 2 [All] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。

ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルで、実行するバックアップ操作をクリックします。

選択されたバックアップ操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。

ステップ 6 [Properties] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

a) [Admin State] フィールドで、[Enabled] オプション ボタンをクリックします。

b) TFTP を除くすべてのプロトコルについて、ユーザ名に対応するパスワードを [Password] フィールドに入力します。

c) (Optional) その他の使用可能なフィールドでコンテンツを変更します。

Note スケジュールバックアップを毎週から毎日にリセットするなど、他のフィールドを変更する場合は、ユーザ名とパスワードを再入力する必要があります。これを行わないと、FI のバックアップは失敗します。

ステップ 7 [Apply] をクリックします。

Cisco UCS Manager は、選択された設定タイプのスナップショットを作成し、ファイルをネットワークの場所にエクスポートします。[Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルに、バックアップ操作が表示されます。

ステップ 8 (Optional) バックアップ操作の進捗状況を確認するには、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。

[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

ステップ 9 [OK] をクリックし、[Backup Configuration] ダイアログボックスを閉じます。

バックアップ操作は完了するまで実行し続けます。進捗を表示するには、[Backup Configuration] ダイアログボックスを再度開きます。

バックアップ操作の変更

バックアップ操作を修正して、別のバックアップタイプのファイルをその場所に保存したり、前のバックアップファイルが上書きされないようファイル名を変更したりすることができます。



- (注) Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] 領域で、変更するバックアップ操作をクリックします。

選択されたバックアップ操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。バックアップ操作がディセーブル状態の場合、このフィールドはグレー表示されています。
- ステップ 6 [Admin State] フィールドで、[enabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 7 該当するフィールドを変更します。

バックアップ操作をただちに実行する場合を除き、パスワードを入力する必要はありません。
- ステップ 8 (任意) バックアップ操作を今すぐに行わない場合は、[Admin State] フィールドの [disabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 9 [OK] をクリックします。

1つまたは複数のバックアップ操作の削除

Procedure

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルで、削除するバックアップ操作をクリックします。

Tip 操作の管理状態が [Enabled] に設定されている場合、テーブルでバックアップ操作をクリックすることはできません。

- ステップ6 [Backup Operations] テーブルのアイコンバーの [Delete] アイコンをクリックします。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 [Backup Configuration] ダイアログボックスで、次のいずれかをクリックします。

オプション	説明
適用	ダイアログボックスを閉じずに、選択したバックアップ操作を削除します。
OK	選択したバックアップ操作を削除し、ダイアログボックスを閉じます。

バックアップタイプ

Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central では、次のタイプのバックアップを1つ以上実行できます。

- [Full state] : システム全体のスナップショットが含まれるバイナリファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ時にシステムを復元できます。このファイルにより、元のファブリックインターコネクト上で設定を復元または再構築できます。また、別のファブリックインターコネクト上で設定を再現することもできます。このファイルは、インポートには使用できません。



Note Full State バックアップ ファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

- **[All configuration]** : すべてのシステム設定と論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクタまたは別のファブリック インターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。このファイルには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。
- **[System configuration]** : ユーザ名、ロール、ロケールなどのすべてのシステム設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクタまたは別のファブリック インターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。
- **[Logical configuration]** : サービスプロファイル、VLAN、VSAN、プール、ポリシーなどのすべての論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリック インターコネクタまたは別のファブリック インターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。

Full State バックアップ ポリシーの設定

始める前に

バックアップ サーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシャルを取得します。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2** [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[Backup and Export Policy] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Full State Backup Policy] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>ポリシーのバックアップファイルが格納されている場所のホスト名またはIPアドレス（IPv4またはIPv6）。これは、サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、またはファブリック インターコネクタがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>(注) IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNSサーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が[グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[Protocol] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP <p>• [USB A] : ファブリック インターコネクタ A に挿入された USB ドライブ。</p> <p>このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。</p> <p>• USB B : ファブリック インターコネクタ B に挿入された USB ドライブ。</p> <p>このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。</p>
[User] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>

名前	説明
[Remote File] フィールド	ポリシーのバックアップファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : [Schedule] フィールドで指定されたスケジュールに従って、Cisco UCS Manager はすべてのポリシー情報をバックアップします。 • [Disabled]—Cisco UCS Manager はポリシー情報をバックアップしません。
[Schedule] フィールド	Cisco UCS Manager がポリシー情報をバックアップする頻度。
[Max Files] フィールド	Cisco UCS Manager が保持するバックアップファイルの最大数。 この値は変更できません。
[Description] フィールド	バックアップポリシーの説明。デフォルトの説明は [Database Backup Policy] です。 256 文字以下で入力します。任意の文字またはスペースを使用できます。ただし、` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャレット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。

ステップ 5 (任意) [Backup/Export Config Reminder] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] カラム	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enable]—Cisco UCS Manager は、指定された期間内にバックアップが実行されない場合にエラーを起動します。 • [Disable]—Cisco UCS Manager は、指定された期間内にバックアップが実行されなくてもエラーを起動しません
[Remind Me After (days)] 列	バックアップの実行に関するリマインダ通知を受け取るまでの日数。1 ~ 365 の整数を入力します。 デフォルト値は 30 日間です。

ステップ6 [Save Changes] をクリックします。

All Configuration エクスポート ポリシーの設定

始める前に

バックアップサーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシャルを取得します。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ2 [All] ノードをクリックします。

ステップ3 [Work] ペインで、[Policy Backup & Export] タブをクリックします。

ステップ4 [Config Export Policy] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>設定のバックアップファイルが格納されている場所のホスト名または IP アドレス (IPv4 または IPv6)。これは、サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、またはファブリックインターコネクトがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>(注) IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNSサーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>

名前	説明
[Protocol] フィールド	<p>リモート サーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP <ul style="list-style-type: none"> • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。 • USB B : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。
[User] フィールド	<p>システムがリモート サーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモート サーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Remote File] フィールド	<p>バックアップ設定ファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。</p>
[Admin State] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : [Schedule] フィールドで指定されたスケジュールに従って、Cisco UCS Manager はすべてのポリシー情報をバックアップします。 • [Disabled]—Cisco UCS Manager はポリシー情報をバックアップしません。
[Schedule] フィールド	<p>Cisco UCS Manager がポリシー情報をバックアップする頻度。</p>

名前	説明
[Max Files] フィールド	Cisco UCS Manager が保持する設定バックアップ ファイルの最大数。 この値は変更できません。
[Description] フィールド	設定のエクスポート ポリシーの説明。デフォルトの説明は [Configuration Export Policy] です。 256 文字以下で入力します。任意の文字またはスペースを使用できます。ただし、` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャレット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。

ステップ 5 (任意) [Backup/Export Config Reminder] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] カラム	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enable]—Cisco UCS Manager は、指定された期間内にバックアップが実行されない場合にエラーを起動します。 • [Disable]—Cisco UCS Manager は、指定された期間内にバックアップが実行されなくてもエラーを起動しません
[Remind Me After (days)] 列	バックアップの実行に関するリマインダ通知を受け取るまでの日数。1 ~ 365 の整数を入力します。 デフォルト値は 30 日間です。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

インポート方法

次のいずれかの方法により、Cisco UCS を介してシステム設定をインポートしてアップデートできます。

- **merge** : インポートされたコンフィギュレーションファイルの情報は、既存の設定情報と比較されます。情報が一致しない場合は、インポートされたコンフィギュレーションファイルの情報で Cisco UCS ドメインの情報が上書きされます。
- **replace** : 現在の設定情報が、インポートされたコンフィギュレーション ファイルの情報で一度に 1 つのオブジェクトについて置き換えられます。

インポート設定

Cisco UCS からエクスポートされたコンフィギュレーションファイルをインポートできます。ファイルは、同じ Cisco UCS からエクスポートされたものである必要はありません。



Note 上位のリリースから下位のリリースに設定をインポートすることはできません。

インポート機能は、すべてのコンフィギュレーションファイル、システム コンフィギュレーションファイル、および論理コンフィギュレーションファイルで使用できます。インポートは、システムがアップ状態で、稼働中の場合に実行できます。インポート操作によって情報が変更されるのは、管理プレーンだけです。インポート操作によって行われる一部の変更（サーバに割り当てられた vNIC に対する変更など）により、サーバのリブートまたはトラフィックを中断する他の動作が行われることがあります。

インポート操作はスケジュールできません。ただし、インポート操作を前もって作成し、そのインポートの実行準備が整うまで管理状態を無効のままにしておくことはできます。Cisco UCS は、管理状態が有効に設定されるまで、コンフィギュレーションファイルに対してインポート操作を実行しません。

インポート操作は、コンフィギュレーション バックアップ ファイルを保存する場所ごとに 1 つしか維持できません。

インポート操作の作成

フルステート バックアップ ファイルはインポートできません。次のコンフィギュレーションファイルのいずれもインポートできます。

- All configuration
- System configuration
- Logical コンフィギュレーション

Before you begin

コンフィギュレーション ファイルをインポートするには、次の情報を収集します：

- バックアップ サーバの IP アドレスおよび認証クレデンシャル
- バックアップ ファイルの完全修飾名

Procedure

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2** [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

- ステップ 4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Import Configuration] ダイアログボックスで、[Create Import Operation] をクリックします。
- ステップ 6 [Create Import Operation] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled]—Cisco UCS Managerでは、[OK] をクリックするとただちに、インポート操作が実行されます。 • [Disabled]—Cisco UCS Manager では、[OK] をクリックするとインポート操作が実行されません。このオプションを選択すると、ダイアログボックスのすべてのフィールドが表示されたままになります。ただし、インポートは[Import Configuration] ダイアログボックスから手動で実行する必要があります。
[Action] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Merge] : 設定情報が既存の情報とマージされます。競合する場合、現在のシステム上の情報が、インポート設定ファイル内の情報に置き換えられます。 • [Replace] : インポート設定ファイル内の各オブジェクトが採用され、現在の設定内の対応するオブジェクトは上書きされます。
[Location of the Import File] フィールド	インポートするバックアップ ファイルが置かれている場所。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Remote File System]—バックアップ XML ファイルはリモート サーバに保存されます。Cisco UCS Manager GUI に次に示すフィールドが表示され、リモート システムのプロトコル、ホスト、ファイル名、ユーザ名、パスワードを指定できます。 • [Local File System] : —バックアップ XML ファイルはローカルに保存されます。Cisco UCS Manager GUI に [Filename] フィールドが関連付けられた [Browse] ボタンと共に表示されて、インポートするバックアップ ファイルの名前と場所を指定できます。

名前	説明
[Protocol] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP <ul style="list-style-type: none"> • [USB A] : ファブリック インターコネクタ A に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。 • USB B : ファブリック インターコネクタ B に挿入された USB ドライブ。 このオプションを使用できるのは、特定のシステム設定の場合のみです。
[Hostname] フィールド	<p>コンフィギュレーション ファイルのインポート元のホスト名、IPv4 または IPv6 アドレス。</p> <p>Note IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[リモートファイル (Remote File)] フィールド	XML コンフィギュレーション ファイルの名前。
[User] フィールド	システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。

名前	説明
[Password] フィールド	<p>リモート サーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p> <p>Cisco UCS Manager ではこのパスワードは保存されません。したがって、インポート操作をイネーブルにしてただちに実行する場合を除き、このパスワードを入力する必要はありません。</p>

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ステップ 8 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

[Admin State] をイネーブルに設定した場合、Cisco UCS Manager は、ネットワークの場所から設定ファイルをインポートします。選択した処理に応じて、ファイル内の情報が既存の設定と結合されるか、既存の設定と置き換えられます。インポート操作は、[Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルに表示されます。

ステップ 9 (Optional) インポート操作の進捗状況を表示するには、次の手順を実行します。

- [Properties] 領域にインポート操作が自動的に表示されない場合は、[Import Operations] テーブルでインポート操作をクリックします。
- [Properties] 領域で、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。

[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

ステップ 10 [OK] をクリックして、[Import Configuration] ダイアログボックスを閉じます。

インポート操作は、終了するまで実行されます。進捗状況を表示するには、[Import Configuration] を再度開きます。

インポート操作の実行

フルステートバックアップファイルはインポートできません。次のコンフィギュレーションファイルのいずれもインポートできます。

- All configuration
- System configuration
- Logical コンフィギュレーション

Procedure

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ 2 [All] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。

ステップ 5 [Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルで、実行する操作をクリックします。

選択されたインポート操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。

ステップ 6 [Properties] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

a) [Admin State] フィールドで、[Enabled] オプション ボタンをクリックします。

b) TFTP を除くすべてのプロトコルについて、ユーザ名に対応するパスワードを [Password] フィールドに入力します。

c) (Optional) その他の使用可能なフィールドでコンテンツを変更します。

ステップ 7 [Apply] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、ネットワークの場所からコンフィギュレーション ファイルがインポートされます。選択した処理に応じて、ファイル内の情報が既存の設定と結合されるか、既存の設定と置き換えられます。インポート操作は、[Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルに表示されます。

ステップ 8 (Optional) インポート操作の進捗状況を確認するには、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。

[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

ステップ 9 [OK] をクリックして、[Import Configuration] ダイアログボックスを閉じます。

インポート操作は、終了するまで実行されます。進捗状況を表示するには、[Import Configuration] を再度開きます。

インポート操作の変更

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ 2 [All] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。

ステップ 5 [Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] 領域で、変更するインポート操作をクリックします。

選択されたインポート操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。インポート操作がディセーブル状態の場合、このフィールドはグレー表示されています。

ステップ 6 [Admin State] フィールドで、[enabled] オプション ボタンをクリックします。

ステップ 7 該当するフィールドを変更します。

インポート操作をただちに実行する場合を除き、パスワードを入力する必要はありません。

ステップ 8 (任意) インポート操作を今すぐに行わない場合は、[Admin State] フィールドの [disabled] オプション ボタンをクリックします。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

1 つまたは複数のインポート操作の削除

Procedure

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ 2 [All] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。

ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルで、削除するインポート操作をクリックします。

Tip 操作の管理状態が [Enabled] に設定されている場合、テーブルでインポート操作をクリックすることはできません。

ステップ 6 [Import Operations] テーブルのアイコン バーの [Delete] アイコンをクリックします。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 8 [Import Configuration] ダイアログボックスで、次のいずれかをクリックします。

オプション	説明
適用	ダイアログボックスを閉じずに、選択したインポート操作を削除します。
OK	選択したインポート操作を削除し、ダイアログボックスを閉じます。

システムの復元

この復元機能は、ディザスタ リカバリに使用できます。

Cisco UCS からエクスポートされた任意の Full State バックアップ ファイルからシステム設定を復元できます。このファイルは、復元するシステム上の Cisco UCS からエクスポートされたものでなくてもかまいません。別のシステムからエクスポートされたバックアップファイル

使用して復元する場合、ファブリック インターコネクット、サーバ、アダプタ、および I/O モジュールまたは FEX 接続を含めて、同じまたは同様のシステム設定およびハードウェアを持つシステムを使用することを推奨します。ハードウェアまたはシステム設定が一致しない場合、復元されたシステムが完全には機能しないことがあります。2つのシステムの I/O モジュールリンク間またはサーバ間に不一致がある場合、復元操作後にシャーシまたはサーバまたはその両方を承認します。

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1) 以降のリリースでは、UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクット上で次に示すサポート対象外の機能を使用して Full State バックアップが収集された場合、Full State 復元を使用してこのファイルを Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクット上で復元することはできません。

- シャーシディスクバリ ポリシーおよびシャーシ接続ポリシーは非ポート チャネル モードで適用されます。
- 仮想マシン (VMware、Linux KVM または Microsoft ハイパーバイザ) の管理は有効にされます。

この復元機能は、Full State バックアップ ファイルにだけ使用できます。Full State バックアップ ファイルはインポートできません。復元は、初期システム セットアップで実行します。詳細については、該当する『Cisco UCS Central Installation and Upgrade Guide』を参照してください。



Note Full State バックアップ ファイルを使用した場合にのみ、バックアップ ファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

ファブリック インターコネクットの設定の復元

バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元するには、Full State バックアップ ファイルを使用することを推奨します。同じリリーストレインの場合でも、Full State バックアップを使用してシステムを復元できます。たとえば、リリース 2.1(3a) を実行しているシステムから作成した Full State バックアップを使用して、リリース 2.1(3f) を実行するシステムを復元できます。

VSAN または VLAN 設定の問題を回避するには、バックアップ時にプライマリ ファブリック インターコネクットであったファブリック インターコネクットでバックアップを復元する必要があります。

始める前に

システム設定を復元するには、次の情報を収集します：

- ファブリック インターコネクット管理ポートの IPv4 アドレスとサブネット マスク、または IPv6 アドレスとプレフィックス
- デフォルトのゲートウェイの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス

- バックアップ サーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスと認証クレデンシヤル
- Full State バックアップ ファイルの完全修飾名



(注) システムを復元するには、Full State コンフィギュレーションファイルへのアクセスが必要です。その他のタイプのコンフィギュレーションファイルやバックアップファイルでは、システムを復元できません。

手順

- ステップ 1** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクトがオフの場合はオンにします。
- ファブリック インターコネクトがブートする際、Power On Self-Test のメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに **gui** と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合、次の情報を入力するよう求められることがあります。
- ファブリック インターコネクトの管理ポートの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス
 - ファブリック インターコネクトの管理ポートのサブネット マスクまたはプレフィックス
 - ファブリック インターコネクトに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス
- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 6** 起動ページで [Express Setup] を選択します。
- ステップ 7** [Express Setup] ページで [Restore From Backup] を選択し、[Submit] をクリックします。
- ステップ 8** [Cisco UCS Manager Initial Setup] ページの [Protocol] 領域で、完全な状態のバックアップ ファイルをアップロードするために使用するプロトコルを選択します。
- **SCP**
 - **TFTP**
 - **[FTP]**
 - **SFTP**
- ステップ 9** [Server Information] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
サーバ IP (サーバ IP)	完全な状態のバックアップ ファイルがあるコンピュータの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。これは、サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、またはファブリック インターコネクットがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。
Backup File Path	フォルダ名やファイル名など、完全な状態のバックアップファイルがあるファイルのパス。 (注) Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。
ユーザ ID (User ID)	システムがリモート サーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。
Password	リモート サーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。

ステップ 10 [Submit] をクリックします。

コンソールに戻ってシステム復元の進捗状況を確認できます。

ファブリック インターコネクットはバックアップ サーバにログインし、指定された完全な状態のバックアップ ファイルのコピーを取得し、システム設定を復元します。

クラスタ設定の場合、セカンダリ ファブリック インターコネクットを復元する必要はありません。セカンダリ ファブリック インターコネクットがリポートすると、Cisco UCS Manager はただちにその設定をプライマリ ファブリック インターコネクットと同期させます。

